

中国の改革開放を日本が支援

民間人の戦後処理 信義の上に成り立つ日中関係

秋の中国くるぶ 小柳ちひろさん講演

2021年秋の「ぎぶ・中国くるぶ交流講座」は10月16日、岐阜市橋本町の生涯学習施設・ハートフルスクエアGで、映像制作会社テムジン（本社東京）ディレクターの小柳ちひろさんを講師に迎えて開かれ、小柳さんは自ら手掛けたNHKドキュメンタリー番組「中国改革開放」を支えた日本人」をもとに製作秘話や登場人物のエピソードなどを語った。

小柳さんはNHKドキュメンタリー番組「敦煌莫高窟美の全貌」（2007年）から中国関連取材に携わり、2011年に「シリーズ辛亥革命



番組製作を通して学んだことを聴講者に語る小柳ちひろさん
＝岐阜市、ハートフルスクエア

された。

「中国改革開放」を支えた日本人」は、最高実力者鄧小平氏が文化大革命で疲弊した国を立て直すため計画経済から市場経済、いわゆる改革開放路線に舵を切った1979年から40年を機に製作され、2019年にNHKのBS、総合で再放送合わせ4回放映

中国は日本を手本に改革開放政策を導入したとされ、番組では日本の建設機械メーカー・コマツによる国営エンジンメーカーへの技術提供、新日本製鐵の宝山製鉄所（現

取材を進めるうち、改革開放に日本人が果たした役割は、日中双方でよく知られていないことを痛感した。一つは（情報を表に出しながらない）中国側の政治的事情、も

新年のご挨拶

岐阜県日本中国友好協会
会長 杉山 幹夫



明けましておめでとうござい
ます。新型コロナ感染症は、変
異ウイルスの登場で収束の気配

は見えそうにありません。ウィ
ズコロナ。決して甘く見ず、マ
スクや手洗い、人と会う機会を
減らすなど、基本的な感染対策
をこれまで以上に徹底しまし
う。

さて今年の日中国交正常化50
周年です。1972年9月29

日、田中角栄首相と中国の周恩
来首相が北京で日中共同声明に
調印し、両国は「恒久的な平和
関係を確立する」ことに合意し
ました。

調印会場の人民大会堂で両首

相が互いの目を見つめて力い
っぱい握手した後、上下に大き
く揺らせる光景は実に印象的
でした。そこに至るまでの道のり
長く険しく、相互不信を払しょ
くするための先人たちのたゆま
ぬ努力があったからです。

岐阜県の先人たちもその一役

を担いました。国交正常化の10
年前、岐阜市と杭州市は「日中
不再戦」「中日友好」の碑文を
交換し、今年60周年の節目に
当たります。それは真心こもっ
た民間主導でなしたもので、

碑は柳浪聞鶯公園、日中友好庭
園にあります。

日中共同声明の本文5項目で
中国政府は先の戦争における日
本への賠償請求放棄を宣言しま
した。「中日両国民の友好の
ために」とその理由をはっきり
とうたっています。

「両国民の友好」は当協会の
活動の核をなすものです。今年
は半世紀前の原点に今一度立ち
返り、これからの半世紀の新た
な交流の在り方を展望する年に
したいと考えます。

宝鋼集団）建設協力を例
に、現在も続くやり取りな
どを描き、放映後、大きな
反響を呼んだ。

小柳さんは取材を通じ、
戦争が終わって長い年月が
経っているが、中国ではい
まだ被害に触れる難しさを
感じたという。「改革開放
を支えた日本人」の物語と
は、贖罪意識を持った日本
の民間人、とりわけ多くの
ブルーカラーが果たした戦
後処理であり、日中戦後史
最大のキーポイントと指摘
した。



中部6県日中友好協会と中国駐名古屋総領事館の意見交換会＝下呂市、下呂温泉山形屋

う一つは日本の企業人は「自慢話」と受け止められることを嫌い、多くを語らないので経済交流の歴史は残りにくいことを理由に挙げた。だからこそ、ジャーナリズムの出番が必要で、映像の強みを生かし、日本をとづくに迫り越して経済大国になった中国を顧みる必要があると考えたという。

中部6県日中友好協会と名古屋総領事館が意見交換
～ 国交正常化の原点から未来を考える ～

中部6県日中友好協会と中国駐名古屋総領事館との意見交換会は2021年12月7～8日、下呂市の下呂温泉山形屋で開かれた。

コマツ社長（後に日中経済協会会長）に対する評価を紹介した。当時の日中関係はうわべや美辞麗句ではなく、信義の上に成り立っていたことを実感し、すごいことに思ったという。「日本人は日中間の史実を知らないことが多すぎる。歴史的視点をもちと持つべきではないか」と番組製作を通して抱いた感想を語り、放送後、中国語の字幕入り動画がSNSにアップされるなど、幅広い層に「こういう事実があった」ことを周知できたと結んだ。

マに毎年開かれてきたが、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で中止、2年ぶりに開催された。各協会とも現状では活動自粛は否めないが、日中国交正常化50年にあたる2022年は原点に立ち返って考えるいい機会と前向きだ。

福井、石川、富山、愛知、三重、岐阜各県の友好協会の代表、総領事館から劉曉軍総領事はじめ交流担当領事・職員ら計24人が参加した。

最初に劉総領事があいさつ。「名古屋に赴任して2年。この地域は昔から中日交流に貢献。美濃出身の学僧栄叡は唐にわたり鑑真来日に尽力、曹洞宗の開祖道元は宋で仏法を学び、福井県に永平寺を開いた。近年では富山県出身の松村謙三代議長は中日国交正常化の地固めをし、愛知県出身の後藤鉦二日本卓球協会会長は、「ピンポン外交」の先鞭をつけた。先人の灯を消さ

ず、北京冬季五輪・パラリンピックを成功させ中日関係の明るい未来をつくらう」と語った。

続いて、各県協会は2021年の活動報告と22年度の計画の概要を発表。岐阜県日中友好協会は6月と10月に講演会「ぎふ・中国くるぶ」を開催できたこと、なかでも講師と聴講者による質問と回答のやりとりを紹介した。

最後に世界卓球選手権名古屋大会（1971年）に中国チームを招くため訪中した後藤会長に同行した秘書の小田悠祐さんが特別ゲストとして、周恩来首相との会見に同席した様子などを語った。小田さんは後藤会長に難題を突き付ける中国側を「私の大事なお客さんを困らせるな」とたしなめた



小田悠祐さん
周首相の懐の深さを評価。相手の立場をそっちのけにしがちな今日の外交に疑問を呈し、「日中関係の未来を考えるヒントになれば幸い」と結んだ。

鑑真来日に尽力した栄叡
～ 里帰り25周年に思いはせる ～

「栄叡大師を顕彰する県民の集い」が2021年11月9日、岐阜市の長良川国際会議場で約600人が参加して開かれ、式典や記念講演を通して中国の高僧・鑑真の来日に尽力した美濃出身の遣唐留学僧・栄叡を日中

文化交流の先覚者としてたたえた。戒律の師を招く勅命を帯びた栄叡と普照は、揚州・大明寺で鑑真に来日を要請した。鑑真は渡海を決意、6度目の挑戦で753（天平勝宝5）年、日本の土を踏んだ。この間、約10年、栄叡は志半ばで客死した。1990年代、県民有志が北京で栄叡坐像4体を制作。95年に約1250年ぶりの里帰りを実現した。坐像は2人ゆかりの興福寺、唐招提寺、正眼寺、真福寺に安置された。

集いは奉賛会や県仏教会、企業などの実行委員会が主催、県日中友好協会などが後援した。「心が通じたから鑑真の来日が実現」とのメッセージに参加者は栄叡に思いをはせた。

日中文化交流の先覚者として栄叡に光が当たって新しい。鑑真没後1200年の1963年秋、中国仏教協会が広東省肇慶市の慶雲寺に栄叡大師記念碑を建立した。70年代、県日中友好協会会員が北京歴史博物館で栄叡の展示資料に目を留めたのが顕彰の始まりとなった。



鑑真来日に尽力した栄叡大師を顕彰する県民の集い
＝岐阜市の長良川国際会議場